

初年次教育としての「生活デザイン演習A」

—生活デザイン学科における実践報告—

白井 篤 花田 朋美 澤田 雅彦

2018年度に生活デザイン学科に入学した新生に対して1年次前期の授業「生活デザイン演習A」の中で実施した初年次教育の取り組みについての報告である。初年次教育の目的は、「①大学という場の理解 ②大学の中での人間関係の構築 ③コミュニケーション力などの大学で学ぶための思考方法の修得 ④能動的で自律的・自立的な学習態度への転換」の4つである。授業後の学生のワークから鑑みると、初年次教育の目的は、ある一定のレベルに達したように考える。特に、学びやすい場（学び合う関係）を構築する力、自分の考えを書く、話す、伝えるという基本的なコミュニケーション力、振り返りながら自分で自分の道（方向性）を創っていく力の3つについては、養えたように思う。

キーワード：初年次教育 到達目標 ワーク コミュニケーション力 振り返り

1. はじめに

初年次教育とは、「高等学校から大学への円滑な移行を図り、大学での学問的・社会的な諸経験を成功させるべく、主として大学新生を対象に作られた総合的教育プログラム」と規定されている¹⁾。従って、単に初年次の学生に教育を施すことを指すのではなく、大学への学びの移行を図るための包括的な支援を指している²⁾。また、学生の4年間の学習への積極性や自立性を向上させるためには、初年次教育のあり方が重要であると言われており³⁾⁻⁷⁾、初年次教育を充実させることは、大学の教育力向上につながるものと考えられる。一般に、初年次教育の目的としては、次の8つがある⁸⁾。

- ① 学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力をつくる。
- ② 高校までの不足分を補習する。
- ③ 大学という場を理解する。
- ④ 人としての守るべき規範を理解させる。
- ⑤ 大学の中に人間関係を構築する。
- ⑥ レポートの書き方、文献探索方法など、大学で

学ぶためのスタディスキルやアカデミックスキルを獲得する。

- ⑦ クリティカルシンキング・コミュニケーション力など、大学で学ぶための思考方法を身につける。
- ⑧ 高校までの受動的な学習態度から、能動的で自律的・自立的な学習態度への転換を図る。

生活デザイン学科において、上記の③、⑤、⑦及び⑧を養成するために、授業を展開したので、その状況について報告する。

2. 初年次教育の概要

生活デザイン学科は、平成30年度改組によって、衣生活デザイン、住生活デザイン、グローバルコミュニケーション（コミュニケーション・情報）、コミュニティデザイン（地域・園芸・ビジネス）の4領域からなる学科に生まれ変わった。これを機に初年次教育のあり方についても見直しを行った。生活デザイン学科の専門科目の中で初年次教育の要素を含んだ科目に1年次前期に開設した「生活デザイン演習A」（演習科目・1単位）がある。この授業の15回のうちの6回について、

多くの大学で初年次教育として実施しているプログラムを参考にして授業を行った⁹⁾⁻¹²⁾。1年次の受講者は39名である。なお、6回の授業共に、図1のように進めた。全体ワークでは、学生全員が一度はグループの代表者となるようにしている。授業の中で主として教員が担当したのは、最初と最後の説明だけである。

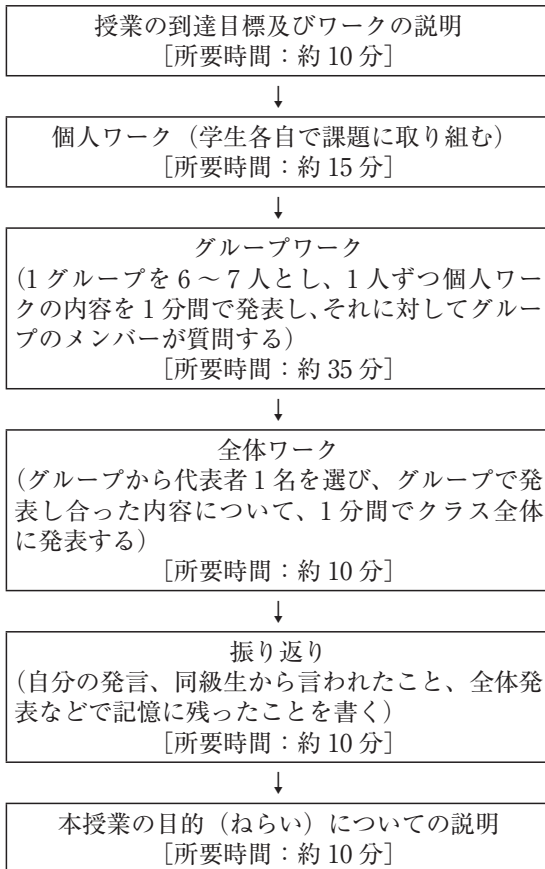


図1 授業の進め方

実施した6回の授業概要は次の通りである。

(1) 自分や友達を知る①

到達目標：「自分はどんな人か」を表現し合い、また、多くの同級生と話をすることで、自己表現しやすい場をつくる。

ワーク：自分を漢字1文字で表すとしたら

この授業は、入学して間もない時に行った。自分を紹介するものとして「漢字」を使用したのは、

生活デザイン学科の1領域である「グローバルコミュニケーション（コミュニケーション・情報）」を意識し、言葉や文字の大切さと、文字が持つ表現力などを理解して欲しいという意図がある。振り返りでは、今まで気が付かなかった自分の特徴なども書いてもらうようにした。授業の最後に、書く、話すという基礎的な力と、表現力やコミュニケーション力を身につけて欲しいという目的で行ったことについて説明した。

(2) 自分や友達を知る②

到達目標：「自分が大学生活で重視していること」を表現し合うことで、「自分の大学生活についての「方針（方向性）」がどのようなものになりそうか、その土台になる情報を得る。

ワーク：大学生活において、やりたいことは

授業の最後に、この授業の目的は、次の3項目であることを説明した。①自分自身のことや、自分の大学生活や人生（将来）のことを真剣に語り合う「対話」と活動を通して、学生同士で学び、発見し、気づき、不安や迷いを共に乗り越えていく「場」と「時間」を共有して欲しい。②自分と友達との違いを楽しんで欲しい。③いろんなタイプの人間が集まることの大切さを理解して欲しい。

(3) 大学を知る

到達目標：約1箇月半の大学生活で、「本学について分かったこと」について情報交換することで、大学生活についてより具体的なイメージを持つ。

ワーク：本学について分かったことは

授業の最後に、この授業の目的は、次の3項目であることを説明した。①自分が学ぶ（通う）東京家政学院大学について知ることは、大学生活を楽しむことにつながり、そして、東京家政学院大学を好きになる（愛着を持つ）ことにつながる。②1箇月半の大学生活を体験して、分かったこと（感じたこと）を出してもらい、それを共有することは、あなた自身が具体的なイメージを持って大学生活を過ごす第一歩となる。③この課題には、見ること、感じることという人間本来の感覚を磨いて欲しいという思いも含まれている。感覚を磨

くことは、生活をデザインする上で大切となる。

(4) 生活デザイン学科を知る

到達目標：自分の所属する生活デザイン学科について他の人に紹介できる。

ワーク：生活デザイン学科についてまとめる

約1箇月半の大学生活を経験して、生活デザイン学科に対するイメージも変化したと思う。大学に入学して最初のレポートなので、文字数は原稿用紙1枚程度(400字)とした。この課題については、自分がまとめたレポートの内容を一人ずつクラス全員の中で発表させた。

(5) 1年次前期の振り返り①

到達目標：今期に受講している全ての授業と課外活動について、自分なりに振り返り、捉え直す。

ワーク1：生活デザイン演習Aを受ける前と受けた後での変化は何ですか。

ワーク2：大学生活の方針について(あなた自身が大学生活において大切にしたいこと、重視すべきだと考えることは何ですか。)

ワーク3：今期は、どのような授業を履修し、あなたは何を得ましたか。

ワーク4：授業以外で、あなたが今期取り組んだことは何ですか。

(例えば、サークル活動、ボランティア活動、大学を超えた友人や仲間とのつきあい、アルバイトなど)

この授業の目的は、今期全体を振り返って言語化し、グループメンバーと共有することにある。

(6) 1年次前期の振り返り②

到達目標：今後の大学生活について自分なりの方針を持つ。

ワーク1：今後の大学生活をどのように過ごしたいと考えていますか。今の気持ちや考えを書いてください。

ワーク2：今期を振り返って、もっと改善したいと考えたことは何ですか。

ワーク3：今期以降、新たに取り組みたいこと、もしくは、継続して行いたいことは何ですか。

この授業は、先週実施した「1年次前期の振り返り①」とつながっており、振り返りを踏まえて、学生一人一人が、今後の大学生活について考え(具現化)させるために実施している。

3. ワークの結果

(1) 自分や友達を知る①

自分を漢字1文字で表すとしたら、「楽」を書いた学生が6名、「笑」を書いた学生が3名、「寝」「雑」「静」を書いた学生が各2名、「喋」「白」「努」「適」「和」「受」「明」「続」「難」「柔」「食」「眠」「幸」「沼」「必」「遅」「飽」「稀」「苾」「愉」「変」「唯」「素」「白」を書いた学生が各1名である。同じ漢字を書く学生もいたが、24名(全体の約6割)の学生がそれぞれ異なる漢字を描いている。同じ漢字(「楽」)を書いた学生も、理由(楽しく生きたいから、楽天的な性格だからなど)はそれぞれ異なっている。

(2) 自分や友達を知る②

学生が大学生活でやりたいことを表1に示す。

表1 大学生活でやりたいこと(学生数 n=33)

項目	回答数(人)
資格(建築士、インテリアコーディネータ、色彩検定、ウェブデザインなど)を取得したい	28
アルバイトを始めたい	22
友達を作りたい(交友関係を広げたい、彼氏を作りたいなど)	15
免許(車、トラック、バイク、ダイビングなど)を取りたい	14
旅行に行きたい(海外旅行を含む)	13
サークルに入りたい	9
勉強を頑張りたい	8
教養を身につけたい	8
自己管理をしっかりしたい(遅刻を減らす、無遅刻無欠席を目指すなど)	6
オシャレをしたい(髪の毛を染めたい、ネイルサロンに行きたいなど)	5
お金を貯めたい	4
趣味を充実させたい	4
ライブに行きたい	3
服を作りたい	3
料理を作れるようになりたい	3
人間性を高めたい	3
一人暮らしをしたい	3
体力をつけたい	2
美味しいモノを食べたい	2
ボランティア活動をしたい	2

注) 回答数1人の項目: 3件、延べ回答合計数: 160件

(3) 大学を知る

学生が約1箇月半の大学生活で知ったことを表2に示す。

表2 大学生活で知ったこと (学生数 n=36)

項目	回答数 (人)
学食が美味しい	18
授業について (楽しい、専門学校のような授業、PCの授業が多い、専門的な授業が多い、英語のレベルが低い、復習が大切であるなど)	14
図書館について (入口がかっこよい、書籍が多い、広い、CDが借りられる、居心地がよいなど)	14
バスについて (本数が少ない、便が悪い、交通アクセスが悪い、5限終わりは始発に乗らないと家政学院前で待っていても乗れないときがあるなど)	14
KVA ショップについて (アイスを作ることができる、品物がすぐになくなる、閉まる時間が早い、メイク道具を売っている)	12
サークルについて (少ない、勧誘が少ない、他大学と交流のあるサークルが多い、ラクロスが有名など)	12
教員について (親切、優しい、癖のある先生が多いなど)	10
自然が豊かである	9
食堂のメニューや価格について (1週間ごとに変わる、ランチの種類が豊富である、値段が安い、スイーツが豊富であるなど)	7
Wi-Fiが通っている	6
ロッカーについて (1人に1つある、暗くて怖いなど)	6
歴史がある	5
少人数教育である	5
キャンパスが広い	4
Edyが使える	4
博物館がある	4
虫が出る	4
ローズコートのソファの座り心地がよい	3
夜、残っている人が少ない	3
第1食堂とローズコートのトイレがきれい	2
イノシシに注意という看板がある	2
優しい先輩が多い	2

注) 回答数1人の項目: 14件、延べ回答合計数: 174件

(4) 生活デザイン学科を知る

学生が約1箇月半の大学生活を経験して、生活デザイン学科を次のように説明している。

- ・学ぶ分野の選択が自由な学科
- ・学ぶことができる分野が多いため、目指せる資格が豊富にあり、将来の可能性が無限大に広がる学科
- ・未来の自分の選択肢がいくつも生まれる学科
- ・同じ学科でもそれぞれ違う道を目指している学生達が集まっていて、お互いにより刺激になっている学科
- ・「なりたい自分」になるための力を身につけられる学科

(5) 1年次前期の振り返り①

生活デザイン演習Aを受ける前と受けた後での変化としては、主に次の5項目が挙げられていた。

- ・友達が増えた。(学科で話したことのない人がいなくなった。何度か変わるグループで話したことのない人と話すことで皆のことを知ることができた。)
- ・人に自分の考えを伝えたり、多くの人の前で話したりできるようになった。発表する力がついた。
- ・大学生活に不安があったが、その不安がなくなった。
- ・自分を見直すことができた。(友達の考えを聞くことによって、より自分のことも考えられたし、自分だけでは考えつかないこともあったので、今後の大学生活に対する意識も変わったように思う。)
- ・大学について学科について考える機会になった。

大学生活において大切にしたいこと、重視すべきだと考えることとしては、主に、次の7項目が挙げられていた。

- ・目標を見失わないこと。(自分のやりたいことやしたいことをしっかり決める。)
- ・将来のための勉強(自分が進みたい道への勉強、就職できる知識や資格を身につける。)
- ・大学生として楽しんで学ぶことを重視したい。
- ・友人との関わり(人と交流することを楽しむ。)
- ・たくさんの経験をすること。
- ・自分から行動する。(積極的にやってみる。)
- ・同じ夢を持つ子や違う学科で自分の知らない職業を目指す子から刺激をもらって新しい知識を得る。

(6) 1年次前期の振り返り②

前期を振り返って満足していることの回答を表3に、今期を振り返って、もっと改善したいと考えたことを表4に、今期以降、新たに取り組みたいこと、もしくは、継続して行いたいことを表5にそれぞれ示す。

表3 満足していること (学生数 n=35)

項目	回答数 (人)
多くの友達ができたこと	14
演習・実習系の専門科目を学ぶことができたこと (ショートパンツやスカートが作れるようになった。図面や模型の作り方を学ぶことができた。)	10
授業を楽しく受けられたこと	6
自分の興味のある分野をより深く学べたこと	5
欠席しなかったこと (無遅刻)	4
授業についていけたこと	2
単位が取れそうなこと	2
割と充実した大学生生活を送れたこと	2
クラスとしてのまとまりが活動を通してできたこと	2

注) 回答数1人の項目: 12件、延べ回答合計数: 59件

表4 もっと改善したいこと (学生数 n=35)

項目	回答数 (人)
時間割の組み立て方をもっとよく考えて組み立てればよかった	8
遅刻・欠席をしない	8
学習時間をもっと増やす	4
空きコマをもう少し有効に活用する	4
課題にもう少し早く手をつける	3
授業にもっと積極的に取り組みたい	3
授業のための勉強だけをするのではなく、将来のために必要だと思うことを探して学びたい	2
自分自身と向き合ってみて、これからの進路を考えられるようにしたい	2
友達の輪をもっと広げたい	2
体調管理をしっかりしたい	2

注) 回答数1人の項目: 15件、延べ回答合計数: 53件

表5 新たに取り組みたいこと、もしくは、継続して行いたいこと (学生数 n=35)

項目	回答数 (人)
[新たに取り組みたいこと] 延べ回答合計数: 37件	
資格を取得するための勉強	10
アルバイト	8
車かバイクの免許を取りたい	4
ボランティア活動	3
インターンシップなど、建築関係の経験を積みたい	2
本をたくさん読みたい	2
サークルに入りたい	2
[継続して行いたいこと] 延べ回答合計数: 28件	
資格を取得するための勉強	6
無遅刻、無欠席	4
サークル活動	4
アルバイト	3
課題の提出期限を守ること	2

注) 回答数1人の項目: 15件

4. ワークの結果に対して

学生が書いたワークについては、一人ずつに必ずコメントを書き、翌週の授業時に返却するようにした。コメントを書く上で配慮した点は、学生を勇気づける (やる気を出させる) 文言とした。1回目のワーク「自分を漢字1文字で表したら」の主な学生へのコメントは次の通りである。

- ・楽に楽しく生きられたらよいですね。楽に楽しく生きているように見える人も、見えないところでは努力していると思いますよ。
- ・他の人が自分をどう見ているか (どう思っているか) は気になると思います。ですが、人の心の中までは分かりません。大学生活でいろんなことにチャレンジして、自分に自信をつけるようにしてください。そうすれば、他の人が自分をどう見ているかは、だんだん気にならなくなりますよ。
- ・文字も笑っているようで素敵ですね。笑顔が絶えない大学生活を送ってください。
- ・うまくサボることも、ある意味、必要かと思えます。要領よくやるテクニックを磨いてください。ですが、結局は、一つ一つを丁寧にやる人が成功すると思いますよ。
- ・あなたの年齢で「自分はたくさんの人たちに支

えられていて幸せだと感じる」と思えることは、すごく素敵なことだと思います。その支えている人たちを幸せにできる力を4年間の大学生活で身につけてください。

- ・1つのことにはまることは大切です。はまった1つのことを極めるようにしてください。そうすれば、そのはまった1つのことを中心にいろんなことを学ぶようになり、その結果、大きな力がつくことにつながります。
- ・笑顔はたくさんの笑顔につながると思います。心から笑顔になれるような大学生活にしてください。
- ・飽きやすいということは、裏を返せば、いろんなことに興味・関心があるということになります。だから、一つのことが長続きしないのだと思います。ですが、いろんなことにチャレンジした経験は、いずれ役に立つと思います。「飽きやすい」を長所と考えてください。
- ・「自分の性格が好きになる」ということは大切なことです。自分を好きになれない人が、人が幸せになるようなデザインを考えることはできないように思います。
- ・決めたことを貫き通すということは、簡単なようで難しいと思います。まずは、大学生活の4年間で、自分自身に太い芯（軸）を作るようにしてください。しっかりとした知識と技術を身につければ、他の人から何を言われようとぶれることはなくなります。それと他の人への優しさも忘れずに。

5. おわりに

本授業の最後に実施したワーク（1年次前期の振り返り①②）の結果から、当初の目的「大学という場の理解」「大学の中での人間関係の構築」「コミュニケーション力などの大学で学ぶための思考方法の修得」「能動的で自律的・自立的な学習態度への転換」については達成できたように考える。特に、次の3つの力を作る環境整備は行えたように思う。

- ・学びやすい場（学び合う関係）を構築できたことで、学生同士で良好な教育環境を整える力
- ・自分の考えを書く、話す、伝えるという基本的なコミュニケーション力

- ・振り返りながら自分で自分の道（方向性）を創っていく力

今後は、初年次教育における学びと評価のあり方について、教育の質保証及び3ポリシーと関係づけることで、学生自身が成長を実感できるようにしていきたい。

参考文献

- 1) 中央教育審議会：学士課程教育の構築に向けて（答申）、2008年12月、pp.1-58.
- 2) 山田 嘉徳、岩崎 千晶、森 朋子、田中 俊也：初年次教育での学習活動における学びと評価を巡る教授・学習論的検討、関西大学高等教育研究、第7号、2016年3月、pp.79-90.
- 3) 濱名 篤：初年次教育の必要性と可能性、大学と学生、2008年5月、pp.6-15.
- 4) 秦 喜美恵：大学での学びのための態度形成を目指した授業作り－「協同学習」での仕掛けと工夫－、社会システム研究 第26号、2013年3月、pp.119-135.
- 5) 榎本 達彦：初年次教育：体験的フィールドワーク授業の構築試論ノート～「BUKAS」の活動報告・アンケートをもとに考える、明星大学明星教育センター研究紀要 第4号、2014年3月、pp.71-82.
- 6) 西村 靖史：大学における初年度教育について、別府大学紀要 第56号、2015年2月、pp.75-86.
- 7) 鈴木 浩子：初年次教育授業「自立と体験1」における学習意欲を高める取り組み－ARCSモデルを手掛かりに－、明星大学明星教育センター研究紀要 第5号、2015年3月、pp.155-159.
- 8) Kawaijuku Report：大学の初年次教育調査、2010年9月、pp.25-35.
- 9) 寿山 泰二：社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック－自己理解編、金子書房、2012年3月、96p.
- 10) 世界思想社編集部：大学新入生ハンドブック、世界思想社、2014年11月、62p.
- 11) 松尾 智晶、中沢 正江：自己発見と大学生活、ナカニシヤ出版、2017年4月、pp.1-53.
- 12) 佐藤 智明、矢島 彰、山本 明志：大学学びのことはじめ－初年次セミナーワークブック、ナカニシヤ出版、2017年5月、114p.

（受付 2019.3.26 受理 2019.6.6）